

平成 29 年度

第 1 回  
庄内町総合教育会議

議 事 録

平成 29 年 10 月 26 日

庄内町教育委員会

平成29年度 第1回 庄内町総合教育会議 議事録

- 1 会議日程 平成29年10月26日(木)  
 開会 午後1時30分  
 閉会 午後2時53分
- 2 会議場所 庄内町役場西庁舎 第二会議室
- 3 内容  
 1 開会  
 2 町長あいさつ  
 3 協議  
 (1) 教育行政にかかる課題について  
 (2) その他  
 4 閉会
- 4 出席者(構成員) 庄内町長 原田 眞樹  
 教育長 菅原 正志  
 教育委員会委員 今野 悦次(教育長第一職務代理者)  
 教育委員会委員 池田 智栄(教育長第二職務代理者)  
 教育委員会委員 梅木 均  
 教育委員会委員 太田 ひろみ  
 (事務局) 教育課長 海藤 誠  
 社会教育課長 上野 英一  
 主査兼教育総務係長 海藤 博  
 教育総務係主任 佐藤 博子
- 5 欠席者(構成員) なし
- 6 傍聴人 なし

開会	(午後1時30分)
教育課長	ただいまから、平成29年度第1回庄内町総合教育会議を開催いたします。はじめに町長よりごあいさつをお願いしますが、ご案内のとおり今年には町長選挙がございまして原田町長の新たな任期がスタートいたしました。その際町長がお示しになった今回のマニフェストについて、少しお話しをしていただきたいと思います。そしてこの中で教育に係る部分について、図書館整備や八幡スポーツ公園の充実のところが触れられておりますので、こういったところを中心に教育委員の皆様と意見交換していただくというような形で進めていただければと思いますのでよろしく申し上げます。それでは原田町長お願いします。
町長	皆さん、お忙しいところお集まりいただきましてありがとうございます。今課長からありましたように、新しい4期目をスタートすることになりました。合併の総仕上げというようなことで進めていきたいと思っておりますし、その中では第2次総合計画には5本の柱がございます。産業の振興であったり教育と子育て、高齢者の元気で長寿、この3つはももとの第1次総合計画の中にもありましたし、これに加えて安心安全だったり環境共生ということで、町の特徴を出す5つの柱を持ちましてこの第2次総合計画を去年からスタートさせております。この計画は10年間でありまして、それを実現していくというようなことではありますが、特にこの4年間は合併の効果ということで、国からの支援を使える有利な時期になるということでもあります。これは基本的には15年間になりますが、残りが3年ちょっとしかなくなっておりますが、この期間に

できるだけハード事業といわれるものは整備をしていきたいと考えておりました。その中でここにもありますように、町役場本庁舎の建設が一番大きい面になるのですが、これは来年の6月から建設に入ります。2年ほどかかって完成できると思っていますが、教育関係では図書館整備があったわけです。これはいろんな状況を見ながら何とか実現をしたいということで掲げてきましたが、なかなかタイミングが合わないといっているのかなと思います。そんな中で役場本庁舎との兼ね合いも見ましてどうするかということでは考えてきたわけですが、基本的には教育委員の皆様からもご理解を頂いているものだと思いますが、この役場本庁舎の建設の後に、あらためて今の図書館は全部取り壊しをして新しく改築をするという方向になっているというように聞いておりますので、それを合併特例債という期限のある合併の効果のある部分では使えないかもしれませんが、その後に過疎債という、国の議員立法でありますので、全く同じようになるかは国の財政もありますので何ともいえないのですが、基本的には継続されるような状況の中で、この過疎債を使って図書館の整備を図っていただければと考えております。これは何分にも国の状況とのいろんな駆け引きもありますので、あまりがちがちに固めてしまうというようなことはなかなかできないと考えております。もうひとつ、八幡スポーツ公園の充実というものがありますが、これは他所から人を呼ぶスポーツ交流人口の拡大の強化と、健康増進を中核に進化させると考えております。具体的には菅原教育長とも話をしておりますが、やはり強い所を伸ばすことが一つのまちづくりの大きな牽引力になりますので、その強い所というのが今人工芝のサッカー場の利用頻度が非常に高いということです。それで八幡スポーツ公園全体があつたサッカー場とソフトボール場の完成をいたしましてから、毎年ほぼ5千人くらいずつの利用者の方々が増えているということです。平成28年度で17万5千人余りのご利用を頂いておりますので、今年は間違いなく18万人を超えるんじゃないかと思っています。ですからここにサッカーとか、それから庄内総合高校も存続が決まりましたので、その庄内総合高校の支援ということも含めて、サッカーというものもしっかりと位置付けしながら、その他に体操部もありますので他所から高校生を呼ぶというようなことも含めて、合宿、研修ができる宿泊所の確保もしていかなければいけないと考えています。これを同時進行で少なくとも3年以内に実現させていきたいと考えておりますので、これについてもいろんなご意見を皆さん方から頂くことになろうかなと思います。なお、八幡スポーツ公園の状況を見ていただければわかるとおり、前の余目保育園の跡地が、現在はいろんなイベントの時の駐車場に使っておりますが、あの所も空いておりますので、スポーツ施設を集約していくということで考えれば、課題のあります武道館のことも、どのようにしていくかという中で、その跡地の活用の部分で考えることのできるのかどうか、このへんも一つ知恵が必要な部分ではないかなと考えております。それからこれは新しい部分での未来予想図としてマニフェストを書かせてもらいましたが、現在も広く使われております文化面での響ホールがあります。この響ホールも年間ほぼ7万人位の方々からご利用いただいております。ただ環境の変化がありますので、今鶴岡市の荘銀タクト鶴岡という文化センターが出来ましたので、あそこが出来るまで本町の響ホールを使うという方が多かったのですが、これがどれくらいの影響が出るのかはちょっとわかりません。それから今年度からこの響ホールも指定管理者制度に移行しておりますので、自らの工夫をもって事業を行うことが重要になっていくということでもあります。ですからこれまでと同じことをやっていくことは非常に楽

	<p>なわけですが、そうではないだろうと、これは町が直接関与するわけではありませんが、ただせっかく響ホールというものが指定管理になってですね、これがしりつぼみになってしまうということは避けたいと思っています。なおあそこをご利用頂いている団体は非常に多いんですが、団体自体の弱体化といえますか、高齢化などによって、どうしても利用者の数が減る、回数が減るといったような状況は否めないということにもなっているようです。こういった部分をどのようにしていくのかということも含めて、今ある組織の強化と共に新しい発想の下に町としても支援をしていく必要があるのではないかと考えています。これはそれぞれ話し合いの時間が必要だろうと思っていますので、まずは今基本的に社会教育の面においては今申し上げたような形でいくという方向付けはある程度決まってきたと思います。あとは学校教育ということにもなりますが、これは県もですね、学力が全国に比べて低かったということに大変ショックを受けておまして、これがなんでなのかということも含めて分析をある程度はじめています。いわゆる勉強時間が短いというようなことと家庭学習としての時間が短いというようなことが1点挙げられているようです。それから弱い部分が明らかにそれを強化する補足的な環境がないということも含めて、こういったものをどうしていくかということについては、県も課題としてあげておまして、そこについては我々も一緒に考えていかなければいけないと考えております。いろんなデータについては逐一教育委員の方々にはしっかりとお伝えをしながら考え方をまとめていければと思います。私からは以上ですので、あとは皆様方が常日頃思っている部分についてご質問いただいて、それに答えていったほうがよりわかりやすいのかなと思いますので、是非そのような形で進めさせていただきたいと思います。よろしくどうぞお願いを申し上げます。</p>
教育課長	<p>それでは3協議に入りますが、議長は町長にお願いいたします。</p>
町長	<p>では、ただいま申し上げたように教育委員の皆さんからどんなことでもかまいませんのでおっしゃって頂いて、それに対して私からお答えしていきたいと思えます。池田委員どうですか。</p>
池田委員	<p>図書館についてですが、今やっと少しずつ動き始めているようなので大変うれしく思っています。先日も中山町だったり、これまで何度も他の図書館を見学させていただきましたが、一番思うのはその町に合った規模であるべきだし、ただ本を貸す借りるということだけでなく、乳幼児から高齢の方まで多くの町民が利用できるような施設にしたいのはどこも同じなわけですが、すると結局はその町の特色ある図書館にすることが大事なのでそのことについて考えていました。それで先日教育委員会計画訪問で図書館に訪問しましたが、ここは貴重な郷土資料が大変豊富でしたので、そのことを大きな特色の一つにして計画を考えていけたらと思います。そして内藤秀因記念館も併設していますので、派手な創りは望まないのシンプルに、そして目玉としてこの2点を特色にした図書館にしていけたらいいと思います。それから場所の件については以前からいろんな意見がありましたが、今の場所ということで進みそうなので、駐車場の問題も含めてそのように進んでいってほしいと思います。また、響ホールに関してですが、鶴岡市の荘銀タクト鶴岡が完成して、これからどのようになるか見えないわけですが、私としては庄内町の宝の一つだと思っております。利用人数が減るのかわかりませんが、子どもたちもより多く利用できる施設として活用できればと思っています。本町の芸文協や各サークルは種類も多いですし活動も活発ですが、高齢化ということと、若い世代が入ってこない現実が</p>

	<p>あります。そこでせっかくいいステージがあるので、本町の子供たちを一人でも多くステージの上に立たせて踊りや歌など何でもいいので、観客から拍手をもらい、ライトを浴びて緊張しながらも発表するような経験を多くできるような仕掛けができればと考えています。スポーツ面では八幡スポーツ公園を中心にして、文化面ではこの響ホールを拠点として両輪で発展してほしいと思います。</p>
町長	<p>はい。では今野委員お願いします。</p>
今野委員	<p>武道館の設置についてですが、かなり老朽化が進み早いうちに改修が必要だということで、場所も旧余目保育所の跡地を利用という、スポーツ公園施設の集約というようにお話しでした。武道館というネーミングはこれからの話になると思うんですが、地域性を見ると伝統である武道としては余目は剣道、立川は柔道なわけですが。その中で例えば立川地域の方がそこに来て柔道が出来るのかということと、その必要があるのか、そのあたりのこれからの方向性が大事だと思います。またこれからの施設は複合式を考えるべきと思いますが、現在の総合体育館のトレーニングルームを利用して思うことは、あそこはほとんど倉庫のような形で、天井も高く面長で冬期間は体が温まるまで少し時間がかかることもあります。できることならば今後の武道館の中にはトレーニングがしやすい環境を入れることも構想の一つとしていいのではないかと提案させていただきたいと思います。また心配しておりました数々のスポーツ大会等における宿泊の確保等は町長からはそういう計画もあるということでしたので、こういう環境が整っているわけなのでより利用度が促進できるのではないのかなと思います。また、人口減少の課題についてですが、どうしても公平性ということを考えますと、合併して12年も立つし余目とか立川とかの壁はなくして庄内町が公平に教育を受ける権利があると思います。例えばスポーツ少年団も立川地域と余目地域で分かれています、悩みの一つとしては人数が確保できないところや指導者の考えもあって一本化できない部分がありますので、そこをなんとか一本化できるように道筋を立てなければならぬと考えています。八幡スポーツ公園は余目地域の方は利用しやすいと思いますが、是非立川地域の方々も活用できるような促進方法を考えてほしいと思います。前回の総合教育会議でも申しましたが、町営バスの有効活用ということで、スポーツ公園とか響ホールとか庁舎や子育て支援センターなども上手く廻れるようにするのもいいですし、保護者等もいろいろな要望があると思うので、我々も公平性と優遇性を考えていかなければならないと思っています。それから今後の余目地域の小学校の学校施設の耐用年数が迫られることで、もしそのあたりの建替えや改築等の腹積もりがあれば、財源等どんな形に方向性としていかなければならないかということをお聞かせいただきたいということと、中学校の人口格差の方向性についても何かもしあればお願いしたいと思っています。</p>
町長	<p>はい。それでは梅木委員お願いします。</p>
梅木委員	<p>私も図書館に関してですが、池田委員からもあったように、図書館は町の文化度を示す指標だと思いますので早く整備して頂きたいです。その中で町史のことなんですが、今合併して12年目ですが、余目町史を見ると、昭和の合併の昭和29年から昭和60年に町史が出るまで30年かかっているんです。それ以後現在まですでに34、5年経過しているわけで、図書館の中に是非、町史編纂室を設けていただいて、町の歴史を語り継いで、記録に残すような、そういう人たちの流れを作ることが必要じゃないかと思っています。そういった人たちはかな</p>

	<p>り町内の中にもいらっしゃるんじゃないかと思います。でも如何せん高齢の方が多いんじゃないかという心配はあります。それから八幡スポーツ公園も利用させて頂いておりますが、非常にいいグラウンドと人工芝で、日曜日になると子ども達の声が聞こえたり歓声が聞こえたり非常に明るい運動施設ですが、やはり付帯設備が少し足りないような感じがします。休憩室やシャワー室などの整備など、スポーツ公園全体として大きな大会を誘致できるような下地は整っているのですが、それに付随する設備が少し足りない感じがします。もう一点ですが、町長の未来予想図の中で、町内への移住、定住として「住まいるタウン・イン・庄内」と記載されていますが、今野委員がおっしゃったように、「庄内町はひとつ」ということで物事を考える流れを作ることが必要じゃないかと思います。どうしても移住や定住、子育て日本一を考えれば余目地域がコア(核)にならざるをえない。中心部にいろんな施設が集まって然るべきだと感じます。そういう面で何とかいろいろな話し合いのもとで「庄内町はひとつ」というスローガンを掲げて実現していければなと考えていました。それから、歴史民俗資料館や亀ノ尾の里資料館があるわけですが、その他にも清河神社をはじめ、歴史的なものが非常に集積している地域もありますし、日本遺産の砂防堰堤もあります。そういったものを中心に全国的に見て歩く方々や愛好する方々がたくさんいると思います。ネットの時代ですけれども、点にある歴史的遺産を何とか面的に広げて観光に役立てられないか。そのためにはネットに頼るのではなく、やっぱり人が足を運んでいくべき所には足を運んで道筋をつけるということが大切だと考えています。</p>
町長	はい。太田委員お願いします。
太田委員	<p>図書館ですが、大江町や中山町など視察してまいりましたが、とくに中山町の図書館で働く人たちや町の人たちが、非常に図書館を誇りに思っていることを感じました。庄内町も、町民の皆さんが誇りに思えるような図書館にしていきたいものだなと思っていましたけれども、やはり庄内町には庄内町の地域に合った図書館を作っていきたいと考えていました。今図書館で働いている方々はベテランですので、いろいろな事をやっていらっしゃいます。例えば、読みかきかせもそうだし、つちだよしはる展もそうですけど、今はいろんな制約があって十分に発揮できない所がありますので、改築によって、それらの活動がさらに自由にいろいろな事ができるようになって、より活用できる図書館にしていけるということなのでその所は大変うれしく思っております。もう一つ武道館の事がありました。先ほどトレーニングルームの話もありましたが、せっかく整備していただけるのであれば、武道だけでなく、他の面でもたくさんの方が利用できるような施設であればいいなと思っています。今までは部活動が中心だったかもしれませんが、日中でもトレーニングルームに限らず、ピラティスだとかは、体育館では寒くて環境が良くないようなので、そうしたことも利用できるような形の武道館であれば、日中の利用者も増えてとてもいい施設になるのではないかと思います。</p>
町長	<p>はい。それぞれについて私の考え方を話したいと思っています。まず池田委員からの図書館については、言われるとおりで町の規模に合った施設ということと、幅広い町民の方々が利用できるようにするという事に併せて、特色あるということですから、梅木委員からあったように郷土史や町史編纂室みたいな話がありましたので、そういったものを組み合わせることができないんじゃないかと思います。歴史は積みあがっていきますから。内藤秀因さんの水彩画についても、今ある所をどういうふうを活かしていくかということもソフト</p>

の部分も併せてやっていくということになります。ただやっぱり絵画ということでは、今油絵なんかも寄贈して頂いたりとか、いろんな形で集まってきていることもありますから、こういったものも併せて上手く活用できればいいかなとは思っています。ソフト的なものでは水彩画の公募展をやっていますけれども、結局学校で習う部分で止まっているわけですね。これを学校で止まっていなくて画塾みたいなものがあったもいいのかなと思っています。せっかく絵を描いている方々がいるわけですから、そういった方々から協力して頂いて、図書館から画塾みたいな形をやっていくことは、また一つの芸術の発展につながっていくんじゃないでしょうか。それから響ホールですが、子ども達が多く利用できるということでのステージ発表を数多くしていくことが重要なのかなと思います。ですからこのステージに立たせる具体的なやり方というものがあるのか、どこを引っ張ってあげたらいいのか少し私わからないので、ステージに立たせる機会を多くする事は教育委員会さんとあわせて考えていく必要はあると思います。それから今野委員からあった武道館の改修について、まさに武道館という形でいってしまいますと、立川地域の柔道は強いけれども、柔道をどうするのかといった時に、中学生は余目中に来るべき子が立川中に行っているくらいの逆の流れもあるわけですから、こういったことを含めれば、これは果たして武道館という名前だけでいいのかということが私も疑問に思っています。そこに四季を通じてトレーニングルームを快適に使えるということも、当然やるとすれば必要になってくるんだろうと思いますから、このへんはやっぱり武道館というよりも、この新しい施設が本当に建てようという気運が高まったところで、その使い方については、どういう組織で検討していくかということがポイントじゃないかと思っています。そこにトレーニングルームとかヨガなど健康のために行うような、そんなに大きい部屋じゃなくても本来はできるわけですから、そういうことができるような施設になればと思います。スポーツ大会では宿泊施設ということもお話しましたが、この宿泊施設ができることによってよりいろんな大会が開催しやすくなることは間違いないと思います。今も第四公民館を宿泊しやすいようにしますし、農林漁業体験実習館もありますので、使いやすいように料金設定なんかも切り替えしています。そういったものの動きを見ながら宿泊施設の進め方を考えていければと思っています。なお、今具体的に上がっているのは民間の宿泊施設の運営をやらせてもらえそうな所があるんです。ただそれは皆さん方がイメージするようないわゆるビジネスホテル的なものとは違うので、それが部屋数であるとか利用度とかを考えて、どの程度我々が考えているものに対応できるのか、最近その話が急浮上してきたものですから、そのところを確認作業させていただきたいと思います。それからスポ少に関しても、早晚子ども達の数というもので考えれば、黙っていればですけども、一本化していつて選択肢を増やせればという思いはあります。ではそのために何が必要かなれば、その中には交通の利便性をしっかりと確保しなければいけないので、町営バスに限らずいろんな形を考えることが必要であればそこで考えていきたいと思っています。ですから具体的にこうやらなければいけないという必然性が生まれてきたときに、それに条件をクリアするように調整していくということはどうかなと思います。これは今余目地域の巡回バスも1日8回、午前と午後4回づつ、1時間に1回買い物できるようなバスがあるので、それにアクセスしながら行くと各施設を回れるんですよ実は。

今野委員

立川地域からも来れるようになっていきますか。

町長

立川地域の幹線路線バスがあって、アピアさんでそれとつながるようになって

	<p>ています。そういったものの活用も今後考えていけるんじゃないかなと思います。ただどうしても子どもたちということになれば学校ということになりますから、学校からのアクセスというようなことで考えれば、そこについてはいろいろな事を今は考えざるをえないような時代になっていますから、そうなればですけれども、間違いなくするようになると思います。</p>
今野委員	<p>親の仕事関係で送りが難しくて迎えるは行けるという方が多いので、送りだけでもそういう環境があればいいと思います。</p>
町長	<p>その点については一度内部的にも話し合いをしたことがあって、どれぐらいの人数が減るのかとか、本当にそれが必要な人たちが、今はおじいちゃんおばあちゃんが送り迎えをするけれども、それが出来なくてスポ少に行けなくなっている子がいるのかどうかとか、そういった確認作業をしっかりとやりながら次の手を打つというふうに考えていければと思います。それから余目地域の学校施設の対応ということで、小学校の老朽化ということですが、これは単純に言えばですね、耐震化をして長寿命化というようなことで考えていますから、これから10年はまずは十分対応出来るだろうと思います。で、これから10年の間に水周りであるとか、いろんな状況が悪くなると一気に悪くなりますので、そこをどういうふうにして見ていくかということになりますが、これは子ども達の数であるとか、他の所は新しい学校を建設してそっちに統合していくという流れになっていますが、そうなのかどうなのか。子ども達の数を見ることと、財政というものの考え方の中で、近場であれば、余目地域を統合して、遠いところは基本的にはバスで通うということも、そんなに変わらないですよ、10分でしょう、余目地域なら。歩く子どもの割合が少なくなる、そのレベルじゃないかなと思っていますから、これから10年の間に、子どもの数とか施設の老朽化と耐久性といいますか、償却の年数なども見ながらですね、国の流れを見ながら考えていくということではいけないかと思っています。中学校のほうは、小学校よりも立川中学校の子ども達の数減り方が激しいものですから、ここはどうしていけるのか、統合というのは非常に簡単な話なんですけど、果たして統合でいいのかということも含めてですね、いろんな工夫ができないのかということも含めて、ここは本当に知恵比べなのかなと思います。ようするに親御さんの考え方、子ども達の将来のことを考えること、そういったものを客観的に分析していくことが必要だろうというふうに思います。これは最終的には統合というようなこともありますから、統合のメリット・デメリットというものとも比較しながら、まずは単純比較という状況も含めてですね、考えていくべきじゃないかと思っています。これはいつでもできますから。ただやりだすとやることを前提に調べているんだということもみんな思ってしまうんですね。それが一人歩きするので、その時期を誤らないようにしないとですね、成るものも成らなくなってしまうということですから、ある意味では本当にそこで勉強している子どもたちとか親御さん達が、「いやこのままではやっぱりだめだ」という声が出てきてからだったら反対は出てこないですよ。そこまでどのくらいの時間がまんでいくということもありますね。それから町としてはその準備はいつでもして、そういう声が出てきたらそのことに早急に取り組みが出来るように、そういうような準備だけはしておくことが今の状況じゃないかなと思います。もともとこのスポーツクラブでもチームプレーの種目が出来なくなるとか、文化クラブなんかは立川中には全くないわけですから、せつかく小学校でいろいろやっても中学校で何も出来ないわけですし、交流は出来るけれども大会には出られないとか、いろんなハードルがありますよね、そのハー</p>

	<p>ドルを同じ町内であれば認めてもらえるように運動していくとかですね、本当に必要であれば我々も同時進行で、国とか県に運動はしていきます。そうなれば単純に統合ありきということではなくて、いろんなことが出来るんではないかと思います。だからメリット・デメリットという所をしっかりと調べることは必要だと思います。それから梅木委員の図書館についてはできるだけ早くとは考えておりますが、先ほど申し上げたとおりであります。町史を作るのに30年かかったということは、今聞いてはじめてわかりました。町史編纂室の考え方も先ほどあったように郷土資料の部分と併せて新図書館の内容についての精査の段階で考えていく必要があるかなと思います。それからサッカー場の付帯施設、これについても、どのレベルで考えていかなければいけないのか、それも今始めて聞きましたので、観覧席とかの要望は良く聞きましたけれども、シャワーとか着替え室などは今日始めてでしたので、そのへんも今の総合体育館の利用状況とか、あるいは極端な話町湯に行ってもらおうとか、そういったことの総合利用なんかも含めてですね考えていくのはあるかなと思います。今総合体育館にはシャワー室ありますよね。</p>
<p>教育長</p>	<p>あります。サッカー場も遠い方には着替えをする場所があるんですが、ソフトボール場は全然反対側になります。そしてサッカーは子供達が使っているで、そこにソフトボールをする大人たちが行くにはなかなか遠慮してしまう現状はあります。</p>
<p>町長</p>	<p>このへんは、どれくらいの需要と利用している人たちの状況なんかも直接聞いて見ないと、本当に必要であるという要望とか、そういったものを関係団体から上げてもらうということのほうがわかりやすいかなと思います。それから「庄内は一つ」という考え方で、これはもちろんそうでありまして、そういう流れを作ることが必要だというふうには思います。もともと合併した時に名前を庄内町にしたというのも、そういう基本的なスタンスがあったわけですし、そうでなければ余目とか立川とかの名前をどこかに残すというのもあるわけなんですけれども、それをなしにしてやろうと「庄内町は一つ」という考え方でやってきたわけですからさらにそれが進められるようにしていきたいと思えます。環境としては地域高規格道路が、より立川寄りにもつながっていきますので、そういった距離的なものと時間的なものとの関係で随分また雰囲気が変わるのかなというふうには思っております。状況を見ながらまたさらに「一つ」というイメージがですね、捉えられるように考えてまいりたいというふうには思います。それから各資料館が多いということで、ある意味で観光とか交流に使えるという部分も非常に多いということです。これは基本的にその観光という観点でですね、新しい観光の計画を立てていますので、ここで情報の発信とかをさらに強化を図れるかなと思います。あとはやっぱりそれぞれの分野でも認識を高めていく必要はあるだろうと思います。みんな人任せにしないとか。今資料館なんかもですね、十二分に活用できていない部分もあるので、そういったところについても整理は必要なんだというふうに思います。それから太田委員の図書館については、現在広さとかの制約があって、今の新しい図書館のような自由度は非常に狭いかなと思います。新図書館ではそれがカバーできるようにさらにチェックをしながら新図書館の建設に向かっていきたいと思えます。武道館についてもそうですね、先ほど申し上げました。町民の多くが使えるというようなことであれば、四季を通じて快適な温度というような環境を作っていくことは必要なのかなと思います。これは新しい施設として考えるときには最低限そういった環境には留意しながら建設を考えるということになると</p>

	<p>思います。またこの武道館という名前についてはまだ検討が必要なのかなと思っています。</p>
<p>教育長</p>	<p>響ホールですけれども、こういう文化ホールは目的が2つあって、町民の方達に見えない聴けないものを是非高いレベルのものを見られるようにしたいということで、例えば今日の夜は森山良子来るように、普段見えない聴けないものを見れるということと、もう一つはその文化ホールを使って、地域の町民の文化レベルを上げるということです。今池田委員が言ったのはそっちのほうの、いわゆる町の子ども達や同好の人たちが気軽に文化ホールに行っている活動が出来るようにするにはどういった体制が必要かなということだろうと思います。それはやっぱり指定管理をしている響ホールと私たち教育委員会が話をしながら、そういう機会とか組織を作っていかなければならないと思いました。もう一つは芸文協の方達の力もやっぱり貸してもらわないと、芸文協の方達は楽しむことはいいけれども、育成の部分が少し足りないのかなというふうに思っています。それから八幡スポーツ公園は長年かかって作っていただきましたが、ああいう施設は正直言えば酒田でも鶴岡でも2万人の町からすれば素晴らしいものだというので、多くの人達が来ていましたけれども、だんだん鶴岡でも酒田でも似たようなものが出来てくるだろうと、そうする時に、これをより活用するためには町民の方達のより中身の濃い使用の仕方してもらわないとだめだろうということで、もうちょっと充実する必要があるだろうと思います。もう一つはやっぱり例えば人工芝のサッカー場は作りました。鶴岡酒田からもたくさん集まっています。でもやがて同じようなものが他の町でも出来たら少なくなる、でもそこでどうするかということを使って町の子供達の育成とか、庄内総合高校の子供達を元気にするために使うという、そういうストーリー性をもっていきたい。八幡スポーツ公園を作って今度は子供達をたくさん活躍させます。そのためには指導者の育成、人間の部分も必要なのかなと思います。さっき町長がおっしゃっていた、八幡スポーツ公園の人工芝のサッカー場をより活用するために、幼稚園と小学校でもっと活用できる方法、それから庄内総合高校を応援するために、どういう形かは考えていませんが、きちんとした指導者を庄内総合高校に張り付けてもらってサッカー一部を強化して、メディアに取り上げられるくらいになれば町民の人たちの話題性も出てきて、旧立川や旧余目の地域のバリアーを少しずつ、スポーツ・文化の面で溶かしていけるのかなと思うわけで、そういう面で響ホールや八幡スポーツ公園を町民のものにしていきたいなと私自身は考えているところです。</p>
<p>池田委員</p>	<p>皆さんのお話を聞いてつないでいくと、例えば町営バスの件では、町長がおっしゃった画塾にしても、響ホールで例えばいつも練習室では放課後指導者がいて金管バンドなり立川地域で出来ない子が、学校からバスに乗って響ホールまで行って、何曜日の放課後出来るとか、町営バスを上手く活用できれば町内の広い範囲で、子どもの選択肢も増えるだろうし、活躍の場も増えるんじゃないかと感じました。その時、教育長がおっしゃったように指導者がいてくれて、そこに子どもが行ける、一般の方も行って教えてもらえるような環境が整えば、これは希望的観測ですが、そういうことを考えれば指導者も必要だなと、それから町営バスの運行の仕方であまりいけるかなと思いました。あと、庄内総合高校に関してなんですけど、町民の方のいろいろな働きかけがあり私も大変ありがたく思っております。そしてほとんど大人に近いあの高校生たちの動きが町に活気をもたらすと思っています。先日も庄内町音楽祭があり、庄内総合高校1年生の10名ほどがボランティアで来てくれました。また、同日に月山龍神マ</p>

	<p>ラソンが行われましたが、そちらにもボランティアで活躍してくれていたようです。音楽祭では男子生徒が1人いて役割があったのですが、とてもよくがんばってくれて彼自身も達成感を感じておりましたし、学校側でも子供達を送り出してきているようですし、町のほうでも声をかけて活躍の場も設けることができました。今後も存続はあると決まったけれども、それでほっとしているばかりでなくて今後とも子ども達の活躍を私達も促し、子供達からも助けももらえればと思ったところです。あともう一つが、どうしても私達は教育関係ばかりに目が行きそうなんですが、庄内町は商工会の組織がしっかりしていて、あいさつ運動が今みたいに町民全部に染み渡ったのはやっぱり教育現場からだけのあいさつがんばろうという声だけじゃなくて、商工会の方も立ち上がってくれて共にやって、今町内で小さな子から大人まであいさつがとても気持ちよくできていると思うので、これからも活気ある庄内町にしていけたらなと感じております。</p>
町長	<p>イベントのボランティアというかお手伝いも、ある意味でステージに立たせることにもつながっていくんだと思います。人って頼まれて役に立つと非常に喜ぶわけですから、それを上手く常に声かけをして、手伝ってもらえるような形にしていくことは大事なことだと思いました。</p>
今野委員	<p>本町は子育て支援が充実していると私は常に思っておりますが、さらなる子育て日本一の町ということで打ち出すことを考えたときに、政府は幼児教育の無償化を掲げていますが、本町としても幼稚園や保育園の状況が変わってくるのではないかと、これに加えて育英資金貸付制度がありますが、どこも同じような制度をやっております。そこを本町としてさらなる色付けとして今後また少し考えを見直すような時期になったんじゃないかなと思います。そのへんの支援の充実に関して、例えば育英資金であればどこまで返済という形になるのか、そのあたり町長何かあればお聞かせいただければと思います。</p>
町長	<p>これはですね、正直言って本町は、他でやらないときからずっとやっています。奨学金制度も、とくに普通であれば受けられない人まで幅を広げて、所得の上限は決めていたんですけども、それでも2人目とか3人目になると大変なのでそういったものも加味しながら貸付をするという状況を作ってきました。返還金を滞納する方も一部いますが、それ以外はきちんと返還して頂いています。返還しなくてもいいという給付型というのは国のほうでも考えていますし、本町でもやれないこともないのですが、やはり条件をどのようにしていくかということが今ひっかかる所なのかなと思っていました。本当に大学や専門学校に行きたいけれども行けないという子どもをどういうふうにして限定できるのか難しい所もあってですね、国とか県の動きを見ながら、それを膨らますことができるのかということも含めて検討はさせてもらっています。今は大学に行ったらいい就職が出来るという時代でもないものですから、むしろ高校生の方が就職の幅が広がっていますので、そういう時代の流れを読み解きながら対応を考えていく必要があるというふうに思っています。</p>
今野委員	<p>清川歴史公園構想は、最初は担当が違ってもそのうち教育委員会が担当する可能性があると思いますが、今の構想の進捗状況はどのようになっていますか。</p>
町長	<p>これも私のマニフェストに「清川歴史の里」構想として書いてあるわけですが、将来を考えるとですね、今の清川体育館をいつまでもあのままにしておくわけではないですよ、雪も深いし。それから今の出張所もどうなっていくのかも含めて、それから清河八郎記念館も考えれば、体育館は耐震化もできないので、地元の方達もあの大きさの施設は必要ないと言ってくれています。じゃ</p>

	<p>あどいう形にするかということになりますが、第Ⅰ期の部分については、昔の川番所を来年度建設するのですが、これは言ってみれば公民館の分室という考え方をしてもらったほうが早いのかなと思います。財源が違うのでそうは言えませんが、考え方としては、あそこは地域の方々が集まることが出来るとか、そば屋を開けるような仕組みも作ってあるので、自分達でお客さんを呼ぶような形をしないと、ただ単純にお金が出ていだけの話でしょうということで、自分達も楽しむような場所にしたらいんじゃないですかということで第Ⅰ期は考えています。第Ⅱ、Ⅲ期は、体育館をどうするかとか、清河八郎記念館をどうするかとか、そういったものが入ってきますが、清河八郎記念館は県でお金を出してくれた建物ですから、今県知事も見に来たりして、少し動きがありますから、これを併せてどういうふうにしようかなと、先ほどの資料館の話もありましたしね、結構古くなっているんですよ。ですからその併せ技で複合施設が果たして作れるのかと、続けられればここは過疎債になると思いますが。</p>
今野委員	<p>財宝が眠っている施設なのに、入ったらヒヤッとしましたので、もっといい環境にしてもいいと思います。</p>
町長	<p>そういった意味で今、大河ドラマを招致しようとふるさと納税で募集したらおかげさまですぐ集まった状況です。</p>
今野委員	<p>地元の方々とお会いする機会があるのですが、私が思うにこれから先の若い方の熱があまり入っていないように感じます。そのあたりもっと若い人や、清川地域や清河八郎を思う方が町内外にたくさんおられると思うので、そういう方々を募集して一緒に考えていけたらいいかなと思います。</p>
町長	<p>そうですね。それはずっと言われ続けてきたんですよ。若い人たちの気持ちが全く歴史公園構想の中に組み入れられていないのではと言われてきました。これはやっぱり若い人たちが関るような機会が少なかったことは確かだと思います。それで、若い人の気持ちをしっかりと確認する時間が必要だろうということで1年先延ばしにしてきた経緯があります。その中で若い人たちが、「我々も出来たときには応援する」というような方向性を出してくれたので、じゃあやりましょうということになっています。そういう意味では少し時間をかけました。他に何かございませんか。事務局からはありますか。</p>
教育課長	<p>とくにございません。</p>
町長	<p>では皆さんよろしいですか。</p>
委員	<p>(了解)</p>
町長	<p>それでは以上をもちまして第1回庄内町総合教育会議を閉会いたします。どうもありがとうございました。</p>
閉会	<p>(午後2時53分)</p>